



世田谷区指定有形文化財(絵画・彫刻)
「勝光院の木造虚空蔵菩薩坐像」【写真左】
世田谷区登録有形文化財(絵画・彫刻)
「勝光院の木造観音菩薩立像」 【写真右】
(いずれも非公開)



新しく指定・登録された文化財

世田谷区指定有形文化財(絵画・彫刻)「勝光院の木造虚空蔵菩薩坐像」
もくどうこくうどうぼさつざどう

世田谷区登録有形文化財(絵画・彫刻)「勝光院の木造観音菩薩立像」
もくどうかんのんぼさつりゅうどう

令和8年2月5日付で、勝光院(桜1-26-35)の仏像2体が指定・登録されました。勝光院は、中世の世田谷を治めた吉良氏と縁の深いお寺です。今回、指定・登録された仏像は、勝光院の沿革だけでなく、世田谷の中世の歴史を紐解くうえで貴重な文化財です。

≫2ページで詳しく解説します。

勝光院について

勝光院は区内でも有数の曹洞宗の古刹で、中世の世田谷領主吉良氏の菩提寺です。その前身は、建武2年(1335)に吉良氏が開基となり建立した龍鳳寺と伝わります。天正元年(1573)に、世田谷城主の吉良氏朝が曹洞宗僧の天永琳達を中興開基として、父頼康の菩提を弔うために再興し、頼康の院号に因み、勝光院と改称されました。吉良氏の有力家臣等は当時、勝光院を菩提寺としていました。徳川家康の関東入国以降は、30石の朱印地を与えられており、旧吉良氏領内で最も格式の高い寺院であったことがうかがえます。



勝光院 山門

このように吉良氏と縁の深い勝光院には、歴史や建築、美術等、多方面にわたり世田谷を語るうえで不可欠な文化財が多く遺されています。境内にある「吉良氏墓所」が区指定史跡、「書院(通常非公開)」と「梵鐘」が区指定有形文化財に指定されています。

世田谷区指定有形文化財(絵画・彫刻)「勝光院の木造虚空蔵菩薩坐像」



像高48.5センチメートル。寄木造。玉眼。頭部は群青彩。白毫に水晶を嵌め、衣は両肩から両足までを覆い、金属製の頭飾と胸飾をつけています。区内でも数少ない安土桃山時代造立と考えられる本像は、伸びやかで丁寧は彫方で、同時代の技巧から見ても優れた像容です。やや小さい体格ながらも、室町時代の余風を残した一種のおおらかさがうかがえます。

江戸前期頃の「勝光院過去帳裏書」という史料には、天正10年(1582)に客殿の立柱が行われたことに続いて、本尊の虚空蔵菩薩像が関加賀守から寄進されたことが記されています。この関加賀守という人物は、「吉良四天王」に数えられる吉良氏有力家臣であり、天正20年(1592)造立の勝国寺の薬師三尊像の「薄之願主」としても名を残しています。

本像は、中世の世田谷領主吉良氏の有力家臣の関加賀守によって勝光院に寄進されたと伝えられ、勝光院の沿革だけでなく、世田谷の中世史を考えるうえでも重要な像です。

世田谷区登録有形文化財(絵画・彫刻)「勝光院の木造観音菩薩立像」

像高4.3センチメートル。素地一木造。彫眼。黒漆塗の厨子に納められています。小像ながらも色彩を施され、首に3本のしわ(三道)が彫り出されるなど、極めて緻密で細部まで意を注いだ造作からは、制作者の技術の高さがうかがえます。その生氣ある顔つきや衣文表現等、写実的で優れた彫りからは、鎌倉時代の要素もみとれます。

江戸後期の紀行文『松の柴折』には、吉良氏朝の守り本尊として伝わる一寸余りの観音像の存在が示されており、本像がこれに該当すると考えられます。

勝光院を再興した世田谷城主・吉良氏朝の守り本尊として伝来する本像は、世田谷の歴史や勝光院の寺史を考えるうえで貴重な資料です。



新しく登録された国登録有形文化財(建造物)

駒澤大学旧図書館(禅文化歴史博物館・耕雲館) 1棟

昭和3年(1928)に竣工した旧図書館は、関東大震災により被災した初代図書館にかわって建てられたものです。後に売店や事務所などとして使用され、現在は禅文化歴史博物館として使用しています。設計者は旧新橋演舞場(焼失)や銀座ライオンビル(国登録有形文化財)を手がけた建築家の菅原榮蔵(1892-1967)です。フランク・ロイド・ライトの影響を受けた、スクラッチタイルと幾何学模様の装飾があります。屏風状の折板構造の外観、天井にステンドグラスを使用した旧閲覧室の内観が特徴的です。



駒澤大学旧図書館
(禅文化歴史博物館・耕雲館)

所在地：駒沢1-23-1
駒澤大学駒沢キャンパス内

榎尾俊雄発明記念館(旧榎尾家住宅主屋) 1棟

カシオ計算機株式会社の創業者の一人で発明家の榎尾俊雄の私邸として昭和47年(1972)に建築されました。設計者は国士舘大学教授であった滝沢健児です。銅板葺きの屋根は棟を中心軸線とした亀甲型平面で、凸状に湾曲させて正面と背面の先端を大きく張り出す軽快なデザインが特徴です。内部は、らせん階段を配した玄関ホールを広い吹き抜けにして、シャンデリアやステンドグラスの装飾がなされています。



榎尾俊雄発明記念館(旧榎尾家住宅主屋)
所在地：成城4-19-10

※見学については各施設にお問合せください

浄真寺修理事業

三仏堂の耐震補強および修理工事

令和2年度より世田谷区登録・指定文化財保存事業費補助事業として実施された、区指定有形文化財(建造物)浄真寺三仏堂(3棟)の耐震補強及び修理工事が全て終了しました。3棟とも基本的な工事は同じ内容で行われました。地震や強風による倒壊を防ぐため、一部の壁を耐震壁に置き換えたほか、仏像が安置される背面に鉄骨製のフレームを設置して建物のバランスをとりました。工事期間中には、木材に記される墨書の調査なども並行して行い、三仏堂が大阪で加工された当時の記録やこれまでの修理の痕跡を確認することができました。



▲耐震壁の下地
◀鉄骨フレーム設置



▲お堂毎に違う記号を使って部材を分けていたことが分かりました。左から下品堂「M」、上品堂「O」、中品堂「△」

下品下生像の修理

江戸時代初期に造られた木造阿弥陀如来(九品)坐像と釈迦如来坐像(都指定有形文化財)は、平成26年度より1体ずつ修理が進められています。令和8年3月末に、公益財団法人美術院によって京都で修理されていた下品下生像が浄真寺へ戻ります。今回の修理で、中品堂と下品堂に坐す6体の修理が完了します。令和8年4月からは、上品中生像が修理のため京都に搬出されます。



修理検討会の様子

文化財標識板の改修

区内文化財のうち、世田谷区と深いかわりを持ち、その地域の歴史や文化、社会の理解に欠くことができないものについて、文化財標識板(説明板)を設置しています。

これまで設置してきた文化財標識板のうち、経年劣化が進んだものについて改修を進め、令和7年度は予定していた9件の標識板の修理を終えました。

令和7年度改修した標識板	
千歳教会堂跡	粕谷 4-17
給田六所神社	給田 1-3-7
豪徳寺仏殿像	豪徳寺 2-24-7
法徳寺	瀬田 1-7-7
円泉寺	太子堂 3-30-8
道標	世田谷 1-29-18
山吉講富士登拝記念碑	郷土資料館内
教学院	太子堂 4-15-1
無量寺	用賀 4-20-1



山吉講富士登拝記念碑

旧清水邸書院

旧清水邸書院は、平成25年に二子玉川公園帰真園に移築復原した区登録有形文化財です。明治時代に創建され、大正時代に瀬田へ移築されたのち、昭和54年に区へ寄贈されました。

活用事業

旧清水邸書院煎茶会

日時：10月18日(土)

共催：世田谷区商店街連合会玉川地区会

江戸時代以降に文人たちを中心に流行した煎茶道の茶席を体験しました。煎茶道を初めて体験された参加者も多く、「普段できない体験だった」「知らない世界を知ることができた」等の感想をいただきました。



煎茶会の様子

雛人形の展示

日時：令和8年

2月20日(金)～

3月3日(火)

3月の節句に合わせて、雛人形を展示しました。



ひな人形の展示

外壁塗装

旧清水邸書院では、外壁の塗装が劣化しているため順次塗り直しを行っています。令和7年度は東側の板壁と北側・西側の戸袋の塗装を行いました。



塗装を終えた外壁

調査報告集の刊行

「世田谷区文化財調査報告集30」を刊行しました。令和4年3月に開園した「区立下馬五丁目庚申公園」に3基の庚申塔こうしんとうが保存された経緯や、下馬地区の歴史民俗について報告しています。

区内図書館で閲覧できるほか、区政情報センター等で販売しています。

大阪府堺市 連携事業

期間：令和8年1月9日(金)～3月3日(火)

東京区政会館で『東京で感じる堺～大阪府堺市と特別区の多彩な共通点～』が開催され、世田谷区からは野毛大塚古墳などをパネル展示で紹介しました。



世田谷区文化財ボランティアの活動

世田谷代官屋敷ボランティア

世田谷代官屋敷ボランティアは、重要文化財大場家住宅の保存と活用をサポートするボランティアです。令和8年3月に次期ボランティアを募集し、新たなメンバーも加わりました。令和8年春期座敷公開は、令和8年4月1日から6月30日まで実施します。

令和7年度の活動

座敷公開

実施日：春期3月29日(土)～6月29日(日)、秋期10月1日(水)～12月6日(土)
各日午後1時から4時までの間、座敷(畳・板の間)に上られる公開事業を行いました。

ボランティア対象フォローアップ講座

実施日：第1回7月25日(金)26日(土)、第2回9月26日(金)

第1回講座では活動の課題を共有し、意見交換を行いました。「ボランティアどうして交流を深めていきたい」「楽しくボランティアを続けていきたい」といった意見がありました。第2回講座では、次大夫堀公園民家園に出向き、民家の間取りについて学びました。

世田谷代官屋敷でかまどご飯

実施日：第1回6月7日(土)、第2回10月4日(土)

小学4年生～6年生を対象に、土間にあるかまどで白米を炊く体験事業を実施しました。



上手く炊けるかな

冬支度の会

実施日：12月19日(金)、22日(月)

新年を迎える準備として、障子を張り替えました。くすみや破れのあった障子もきれいになりました。



古い障子紙をはがします

文化財解説ボランティア(野毛大塚古墳・等々力溪谷)

春期と秋期に定期開催している、野毛大塚古墳と等々力溪谷の「文化財スポットガイド」では、ボランティアの皆さんが歴史や自然について現地でも解説しました。今年度は、野毛大塚古墳での活動を1時間増やし、より多くの方に解説しました。

ボランティアの自主的な工夫

解説するボランティアの皆さんは、野毛大塚古墳や等々力溪谷の魅力伝えるため、さまざまな工夫を凝らしています。既存のパンフレットの有効活用はもちろん、自主作成の資料をボランティア同士で共有し配付する方や、外国人観光客への解説にチャレンジする方もいます。

ボランティア育成のための取り組み

ボランティアの知識を深めるための取り組みとして、フォローアップ講座を年に2回開催しています。夏のフォローアップ講座では野毛大塚古墳や周辺の古墳を巡り、主に古墳時代の玉川地域について、実際に遺跡発掘に携わる区文化財係学芸員が解説しました。



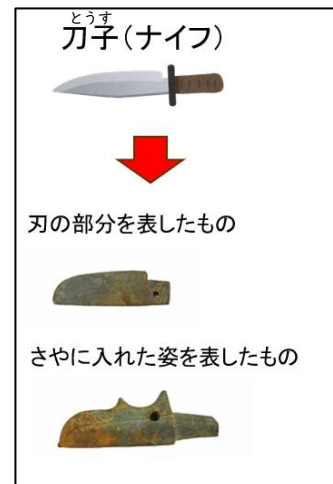
解説の様子

古墳時代のモノづくり体験

日時：8月16日(土)

会場：教育会館「ぎんが」

夏休みに楽しく歴史を学べるワークショップとして、区内の小学校4～6年生を対象に、石製模造品づくり体験を実施しました。石製模造品とは、軟らかい石材（滑石）を削って農具や武器などをまねて作った器物で、古墳時代の祭祀儀礼に使用されたと考えられています。区では野毛大塚古墳から多く出土しています。会場には、見本として野毛大塚古墳出土品のレプリカや区文化財系の職員が製作した資料を展示し、参加者は見本を参考にしながら各自で作りたい種類を選び、滑石を削ってさまざまな形の石製模造品を作りました。



石製模造品 一例

2025遺跡発掘調査速報展—最新の調査成果から—

会期：8月2日(土)～10月19日(日)

会場：世田谷区立郷土資料館 展示室3

令和6年度に実施した遺跡の発掘・整理調査成果をパネルと出土品で報告しました。

今回は、^{つりがねいけきた}釣鐘池北遺跡第12次調査・^{かみのしんめい}上神明遺跡第35次調査・^{かいはら}諏訪山遺跡第23次調査・^{かいゆうとうきこつぞうき}等々力原遺跡第2次調査の4つの遺跡から、縄文土器や土師器、灰釉陶器骨蔵器などの出土品を展示しました。



釣鐘池北遺跡出土 灰釉陶器骨蔵器

第18回遺跡調査・研究発表会

日時：11月16日(日)

会場：教育会館「ぎんが」

埋蔵文化財に関する調査・研究の成果を発表し、文化財保護の重要性をさらに多くの方に認識していただくことを目的として実施しています。

東京都埋蔵文化財センター調査研究員の松崎元樹氏による「横穴墓からみた世田谷の古代」と題した特別講演と、区文化財係学芸員による埋蔵文化財に関する概要説明および令和6年度発掘調査の成果報告を実施しました。



特別講演の様子

特別講演の動画を公開中！
せたがやeカレッジ



世田谷デジタルミュージアム

デジタルアーカイブ化した区内の文化財や関連資料を閲覧できるウェブサイトです。人気のスペシャルコンテンツ「文化財紹介動画」に、新たに2本の動画が加わりました。ぜひご覧ください。



動画「須賀神社の湯花神事」



アクセスはこちらから

世田谷の郷土学習

世田谷の貴重な文化財や歴史・文化を次世代に継承していくことを目的に、世田谷の郷土学習支援として下記の事業を実施しました。

出張授業 7校(小1・3・6)

原始・古代の歴史について、区内で出土した土器や石器等に実際に触れながら学ぶ授業や、野毛大塚古墳での野外授業を実施しました。また、近代以降の世田谷のうつりかわりや学校周辺地域の歴史、当時の農家の暮らしについての授業も実施しました。

社会科見学 のべ61校(小1・3・4)

郷土資料館、次大夫堀公園民家園、岡本公園民家園では、代官屋敷をはじめとする古民家を見学しながら、かつての暮らし、住まい、昔の道具についての解説や、一部の学校では体験も実施しました。

体験学習 3校(小1・3・中2)

民家園で古民家や昔の道具を通じた学習として、藍染めなどの職人技術の体験や、畑の農具などを使った体験によって、世田谷の昔の暮らしについての学習を実施しました。

校内展示 1校

小学校付近から出土した土器を展示し、近隣の遺跡について紹介しました。



出張授業の様子



社会科見学の様子



体験学習の様子

郷土資料館事業

特別展 世田谷の用水

会期：10月25日(土)～12月21日(日)

かつて世田谷区内を流れていた六郷用水や品川用水などの用水路の歴史を紹介しました。来館者からは、「区内の用水や川を散策しており、歴史が分かって興味が増した」「玉川上水だけでなく、地元の用水についても知ることができた」といった感想が寄せられました。

特別展関連講座「大東京の水事情」(12月7日開催)では、九州大学教授の松本洋幸氏をお招きし、100年前の世田谷における水道会社による給水や井戸水の利用状況などについてお話いただきました。

コーナー展示

新たな取り組みとして、本館入口付近でコーナー展示を始めました。話題性のあるテーマのほか、様々なテーマで展示をする小スペースです。今年度は、昭和100年と戦後80年にちなんだ企画を中心に、「昭和の世田谷と小学校」(4月5日～7月27日)、「戦時下の暮らし」(8月2日～9月21日)、「世田谷線100周年」(9月27日～10月12日)、「縄文時代の変った「かたち」」(令和8年1月31日～3月29日)を開催しました。



特別展 展示風景



「戦時下の暮らし」展示風景

民家園事業

次大夫堀公園民家園企画展「100年後の古民家 文化財建造物のものさし」

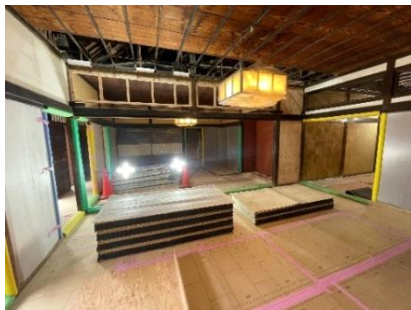
会期：11月1日(土)～令和8年1月1日(木・祝)

当園の事例をもとに、文化財建造物の在り方について考える展示を行いました。茅葺きの古民家で生活が営まれていた頃の価値と、文化財として保護していく上での価値について取り上げ、文化財建造物が抱える課題について整理しました。

展示に関連して、講演会「世田谷の民家園のこれまでとこれから」を開催し、令和5年12月より建物の不具合により主屋内見学を中止し、令和7年7月から修繕工事を行った旧安藤家住宅主屋の工事見学と、講師による講演を行いました。



次大夫堀公園民家園企画展 展示風景



講演会(工事見学)会場の旧安藤家住宅主屋内

工事見学では、建物の不具合の原因である役宅空間に建つ柱について、金物による矯正と、建物の紹介および設計の考え方を解説しました。

講演では、世田谷区指定有形文化財第一号である旧長崎家住宅主屋を事例に、世田谷の文化財建造物の考え方や、これからの文化財建造物保護の方向性について世田谷区の民家園の建設に携わった稲葉和也氏(建築史家)にお話しいただきました。

岡本公園民家園「ムラの道 岡本の記憶を辿る」

会期：7月4日(金)～令和8年3月22日(日)

地域の歴史や文化に親しむきっかけとして、区内岡本の「道」に関するできごとを紹介しました。古地図や古写真を中心に、岡本に残る江戸時代の古道や坂道、近代以降の都市化で誕生した道といった村における景観の移り変わりを展示しました。

関連事業は「展示解説会」(7月6日、9月20日実施)のほか、「ムラを歩く」(11月15日実施)では、岡本地区の古道や坂道を解説しながら散策しました。

民家園ボランティアの取り組み

藍染めの会や綿の会をはじめとする民家園ボランティア10団体は、スタッフの一員として、昔の世田谷における農家の衣食住や職人に関する実演や体験といった、区民や来園者の方々が世田谷の歴史文化や文化財について、さらに理解を深められるような活動に取り組んでいます。

各団体が指導者となる「昔の農村体験」では、昨年度の内容を拡充し、春夏秋冬の4期間で延べ86事業を実施し、多くの来園者が世田谷の農村にみられた昔の暮らしやものづくりを、季節の移り変わりとともに体験しました。



岡本公園民家園企画展 展示風景



「昔の農村体験-夏の巻-」そば打ち体験